

71%と村全体より約10%
以上の高齢化率は、47・
65歳疎高齢化が著しい。

山城ひとナビ

大阪国際大の南山城村プロジェクト代表

ねぎし こうき
根岸 昂生さん (24)



南山城村高尾地区の活性化に取り組む学生団体の代表を務める。「住民と同じ目線で地域をよくしたい」。活動を始めて3年目。少しずつだが、地域に学生が受け入れられてきたと感じる。

2年前の夏、まちづくりを学ぶゼミの一環で、村の農家宅に泊まり農作業を手伝った。畑作業に汗を流し、地域の課題を探った。ある男性から声掛けられた。「高尾には若い人がおらんのや」

村の南に位置し、奈良県との境にある高尾地区

は、約120世帯330人が暮らす。村内でも過

疎高齢化が著しい。65歳以上の高齢化率は、47・

高い。

ゼミでの活動後、約10人のメンバーと「南山城村プロジェクト」を立ち

普段は見えない支え合はるら」という声も耳にし

た。「ここまでつながりた。

昨年10月からは、学生と母親グループ、新旧の住民で毎月、廃校になつた旧高尾小に集う。都市との交流や新住民の受け入れ体制などを地域の声を聞きながら議論する。

会議の内容は、A4判の紙にまとめ「高尾新聞」と名付け、全戸に配布する。「高尾から活動が広がり、村全体で地域を考えるきっかけが生まれればうれしい」と願う。

春からは、東京で社会人生活。だが、会議も新聞発行も後輩が受け継ぐ。村でまた「種」は着実に根付く。京都市山科区在住。

上げた。村に通い、地区が強いのか」と驚いた。祭りや田植えをした。徐々に悩みを打ち明けてもらえるようになつた。子育て中の母親からの意見を手伝い、終わるとすれば「将来、この子は地域を手伝う」という声も耳にし

いが、高齢化率は100%でもいいと思う。地域の在り方はそこに住む人が決める。その思いを手助けしたい

高齢化地区の思い手助け

「極端の話かもしれないが、高齢化率は100%でもいいと思う。地域の在り方はそこに住む人が決める。その思いを手助けしたい